

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372600209		
法人名	有限会社 おおむら		
事業所名	グループホームさくらそう		
所在地	岡山県都窪郡早島町早島2953-4		
自己評価作成日	平成26年11月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3393500016-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成26年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・庭で野菜を育て利用者様に旬の物、獲れたての物を提供しています。 ・時間にとらわれず、個々に合った支援が行えるよう努力しています。 ・ゆったりとした空間の中で安心かつ安全に生活を営めるようサービスを提供しています。 ・ご利用者の残存機能の維持向上を目指し、生活リハビリを実施しています。 ・行事委員会を発足し外出や各種行事にも積極的に取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所敷地内に広い菜園があり、法人の会長が毎日畑に出向き、野菜の管理を行い、利用者と一緒に水やりや収穫をし、旬の食材を食卓に提供している。利用者は各々役割を持って生活を送っている。「笑顔いっぱい施設」を理念に掲げ、月間目標を理念に基づき(12月の目標「破顔一笑」)考案し、声掛けや対応時での実践に努めている。事業所を取り巻く近隣住民の高齢化が進んでいる事に懸念を抱き、地域の活性化を図る為に、清掃奉仕等のボランティア活動に参加や、事業所の行事・イベント・内覧会に地域の方を招待する企画を自治会長と共に検討している。地域の拠点となる事業所作りに努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に掲示をし、いつでも目に入るようにしており、朝礼ではスタッフ一同で唱和して徹底している。	リビングや詰所に掲示し、朝礼で唱和することで意識付けを図り、日常の行動規範となる様努めている。理念に基づく月間目標を考案し、実践に繋がる様努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日には利用者と共に散歩に出かけており、近所の方と挨拶を行う等してコミュニケーションを図っている。今後は地域の掃除や、お祭りなどにも参加するように企画している。	近隣へ散歩に出掛け、出会う近所の住人と挨拶を交わし交流をしている。今後は、地域の高齢者が主催しているグランドゴルフへの参加や、事業所の内覧会・イベントに地域の方の招待を検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方にも施設の行事や、イベントに参加してもらえるように話をしていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成26年10月よりかねてからの懸案であった運営推進会議を開始した。今後は会議での意見をサービス向上に活かし2ヶ月に一度必ず開催をすると共に意見を聞きながら施設運営をしていきたい。	運営推進会議を今年度10月から自治会長・民生委員・地域包括・役場福祉課が参加し開催している。各種の事業報告や地区の高齢化に伴う事業所との交流に関して話し合いが行われている。	運営推進会議を継続して開催し、行政に事業所の運営の理解を図ると共に、アドバイスや伝達を受け、サービスの向上に繋がればと考える。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課、地域包括支援センターにも毎月挨拶に回り、何かあったときには連絡や相談を行い、助言を受けています。	運営推進会議には地域包括・福祉課の職員が参加しており、事業所の取り組みを報告し相談すると共に、伝達・助言にも応じてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は道路に面しており車の行き来が多いため事故防止のため施錠しているが、庭にはいつでも出れるように解放している。	職員は研修にて身体拘束をしないケアについて理解している。敷地内の畑にはいつでも自由に入出入り出来、野菜の水やりや収穫をしている。自分らしい生活を送り、穏やかに過ごしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月開催している勉強会にて虐待防止や、虐待についての勉強会を予定して職員に理解を深めてもらえるように企画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、当施設では後見人の必要な方はいらっしゃいませんが、グループ企業の中では後見人をつけておられる方もあり、他施設と連携して共通認識をもつようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には重要事項説明書にて十分に説明を行い、わかりやすく説明し、十分ご理解のうえでご入居頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、活動内容を新聞にて家族に配布している イベント等の行事に家族も参加できる場合は参加してもらえるように促している。	イベント等に家族の参加を促し、「さくらそう通信」にて活動報告をして、運営に関する意見を聴く機会としている。行事に関しては入居者に嗜好調査をし、入居者の意向で運営の取り組み方を決めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回全体会議を行って話し合っており、又何か問題がある際には管理者に報告してもらい反映が出来る様努力している。	月1回、全体会議を開催し話し合いをしている。責任者・管理者・職員の3者面談を行い、職員の抱える問題や意見・提案を聴く機会としている。業務活性化委員会にて話し合い運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設の責任者、管理者、スタッフとの3者面談を毎月行い、各職員の状況把握し問題解決に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回、他施設とも合同での内部研修と、出来る限り外部への研修機会を設けている。全員が参加できていないので全員が参加できるように特定の職員に促していきたい。今後、新人研修・管理者研修を行う予定です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加し、他事業所の運営状況やケアの方法を教えて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とヒヤリングをしながらアセスメントを取り、それを基にプランを作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず家族と話し、それを基に本人と話をした上でケアプランを作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問看護に来てもらっている為、看取り希望の方も視野に入れて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションの時間を多く設け、ご本人のやりたいことを出来るだけやって頂けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあった際には連絡を行い、ケアの内容に問題がないか確認を行っている。 面会時や電話にて状態の説明を行い、ケアの内容を理解して頂ける様に努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的に時間を問わず、ご家族様や親類の方には面会をして頂け、ゆっくりと会話ができるよう居室に案内している。ホールでは演歌をかけることにより、利用者様同士や職員とで若い頃を思い出し、話をしている。	家族や親族、知人の面会時はゆっくり会話が出来る様配慮している。法人の小規模多機能事業所と一緒に園児交流を楽しみ馴染みの関係を築いたり、訪問理美容の受け入れや家族と墓参りに行ける様支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの時間を設け、入居者同士がほぼ毎日コミュニケーションを取る時間を作っている。ソファでくつろげる空間を設けており、皆と話をしながらお茶を飲んだり庭を眺めたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も何かあった時には相談してほしいと退所時には話をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には過去の生活歴などをヒヤリングし、今までの生活を入居してからの生活に活かせるよう、カンファレンスの際にしっかり話し合っている。	利用者・家族・ケアマネジャーからの情報収集や利用者の生活歴等を勘案して、思いや意向の把握に努めている。どのような生活をしたのか利用者と十分話し合い、暮らし方の希望を捉え、カンファレンスにて確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族、ご本人や家族、ケアマネジャーからヒヤリングを行い把握したアセスメントシートに記入し、カンファレンスで職員に伝えた後に入居頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の様子を観察した上でタイムスケジュールを把握し、本人に合わせた生活リズムにて生活して頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に、家族、本人やケアマネジャーからの要望を聞き、本人にはどのような生活をしてほしいか、どうあってほしいかを話合せて計画書を作成している。	本人の要望や援助すべき課題を捉え、具体的なサービスを作成している。6ヶ月に1回、モニタリングを行い、サービスの進捗状況を話し合い見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝、朝礼にて昨日の日中の様子や夜間帯の様子を伝えるとともに状態の変化があった場合、都度カンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散髪や習いたいことなどがあれば、ボランティアの人やその人に合った環境を提供できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の体調や身体の状態向上に努める為に買い物や散歩を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様希望のかかりつけ医に往診をしてもらい、少しの変化でも連絡、報告を行い、主治医との連携を図っている。また、緊急時にはご家族様と一緒に受診している。	協力医がかかりつけ医を担当し、事業所と連携しながら適切な医療が受けられる様支援している。看護師の職員による健康管理や週一回の訪問看護師との連携にて異常の早期発見に努めてる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化でも看護師に報告し、早期発見・早期対応に努めている。訪問看護師にも同様に報告し、密に連携を取っている 必要ならば受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ面会に行き、担当医・看護師から情報を得て、退院時にしっかりケアが行えるよう医療機関との連携も大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの説明を行い、終末期の対応に医療が必要ない場合は、担当を決めカンファレンスを行うと共に職員全員で看取りを行うようにしている。	入居契約時に終末期の事業所で出来る対応について家族に説明している。終末期は医療の必要がなければ協力医と連携して、終の棲家となる様、看取りを行う様にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、急変時の対応については定期的に勉強会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。	年2回、通報・避難マニュアルに基づき避難訓練を一緒に実施している。防火設備は整い、防火管理は万全を期している。火災時の避難場所は同敷地内の庭と確認が出来ている。	地域との協力体制に関して、自治会長と運営推進会議にて話し合いが進んでいる。理解が進み良い構築関係が築かれる事に期待を寄せる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや、言葉遣いなどについては月間目標にて、「～ございます」をつける月間等、言葉遣い等についても全員で気を付けている。	コミュニケーションの際、言葉使いに注意し、丁寧な対応で一人ひとりを尊重する様心掛けしている。行事企画時には、入居者の嗜好を取り入れ、行事に反映させている。日常的に趣味等を取り入れ、思い思いに生活を送っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎月、通信を作成するときに利用者様からやりたい事など聞いて行事として組み入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や食事時間等、個々のペースに合わせてるようにゆったりした時間配分になっている。個々によって希望されることが違うが、希望に添えるよう個別レクリエーションを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じて新しい服を購入したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りご飯の際には献立の中に好みを取り入れるよう工夫している。 簡単な盛り付けや片づけを行ってもらい職員と利用者は一緒に食事をしている。	栄養士による献立にて栄養バランスを考慮した食事となっているが、週2回は菜園で収穫した旬の野菜を使った手料理で、食事を楽しむ工夫をしている。テーブル拭き、下膳等、出来る事は手伝ってもらえる様支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立で調理されており一日、バランスのとれた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様に声掛けを行い、なるべく自力にて口腔ケアをしてもらっている。自力での口腔ケアが難しい方は介助にて行う。 嚥下訓練もバタカラ体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々、排泄表をつけており排泄パターンを把握している。トイレ時も個々に合わせた声掛けや誘導を行い羞恥心に配慮した対応をしている。	排泄はトイレを基本とし、排泄パターンを把握して随時に誘導している。排泄介助において声掛けや誘導時に羞恥心への配慮を示している。運動や食事内容を検討して体調管理を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションや散歩等の運動や食事内容を検討して、出来る限り薬に頼らず自然排便がみられるように支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回以上、声掛けを行い、利用者様のタイミングに合わなければ時間をずらして利用者様主体での入浴を行っている。	本人の意向を確認の上、入浴の誘導をしているが、拒否時には本人に納得してもらえる声掛けを工夫し、気持ちよく入浴できる支援をしている。冬至に柚子湯をしたり、時にはCDを聴いたり等入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、よく寝て頂けるよう日中、寝ないように注意すると共に利用者様が休みたいときには個々のタイミングで休息してもらったり、安心して夜間睡眠が取れる様、静かで快適な空間を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をよく読み、看護師から職員に説明し、本人の疾患や既往歴を把握、何のために内服しているのかを理解するようにしている。又、内服時の変化がないか日々観察し小さな変化でも看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや好きなことをしてもらえるように個別の対応ができるようにしている。気分転換に散歩やドライブ、毎月イベントを企画して楽しみごとの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な行事や外出、散歩を企画して戸外に出て季節を感じてもらおうようにしている。地域の方とも関わりを持つよう行事を企画している。外出時には家族に伝え、お小遣いをもらい買い物している。	スーパーへ自分の買い物兼ねてのドライブや、気分転換・外気浴を兼ねて近隣へ散歩に出掛けている。国分寺へ紅葉狩りに行き、季節を楽しむ支援をしている。一年を通じて広い菜園で野菜を作り、自主的に外に出て野菜の水やりや収穫を楽しんでいる。	地域の方とも関わりが持てる様、地域行事の参加を企画しているようである。事業所内外の行事に参加する機会が増え、日常的に外出が出来るようになればと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望により少しのお金を持つ人はいる。お金を持つことで安心して暮らせる方もいるので尊重している。外出時にはご家族に伝え、お小遣いで買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から希望があれば電話を貸し出ししたり、手紙が出せるように一緒に書く等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度の管理に努め、湿度は30%を切らないように定期的に確認し、必要に応じて加湿器にて対応している。季節に応じた壁面の飾りつけを利用者と一緒に行っている。トイレやお風呂に張り紙をして、ここが何の部屋かわかりやすくしている。	気の合う者同士が肩を寄せ合ってソファーに座り、テレビを楽しんでいる。各テーブルに生け花を置き、壁には季節の品を飾り、季節感が味わえる様工夫している。気候が良くなればベランダの木々の下でお茶を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングとテラス前に別々に分けてソファーを配置しており、その時々のご気分を使い分けて頂いている。庭にはベンチがあり、気の合った方とコーヒーを飲みながら過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みのあるものを入居時に持参して頂き環境作りに努めている。必要なものや、利用者様から訴えが合ったとき等はご家族様に連絡して自宅から持ってきてもらっている。	居室にて趣味の俳句や俳句集を読んだり、編み物をしたりして自由に過ごしている。テレビ・カレンダー・タペストリー等を持ち込み、自分の好みでベットを配置し、自分らしい部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の持てる能力を理解し、活かせるようご飯の盛り付けやテーブル拭き等、自立支援を行っている。 はさみ等の危険なものを置かず、自由に行動出来る様、環境の整備している。		